目 次

同志社コリア研究叢書創刊に寄せて ―――― i

はじめに ―――― 鄭 昞旭・板垣 竜太 1

第1部　個人記録から歴史を描き出す

1 近代において日記を書くことの意味 ―――― 西川 祐子 13

2 歴史的視点から見たヨーロッパの自己証言文
—新たなアプローチ— ―――― クラウディア・ウルブリヒ 38

第2部　近世に生き、死ぬ

3 『欽英』、分裂した自我の記録 ―――― 金 何羅 59

4 自己を記す ―――― イザベル・リヒター 91
—18世紀及び19世紀のドイツ語圏日記に表れた経験、主体性、そして個人性について—

第3部　異民族を支配する

5 大韓帝国期光州における奥村兄妹の真宗布教・実業学校設立
—新史料『明治三十一年　韓国布教日記』を中心に— ―――― 山本 浄邦 107

6 朝鮮駐劄憲兵隊司令官立花小一郎と「武断政治」―――― 李 炯植 145
—『立花小一郎日記』を中心に—

7 韓国駐箚軍参謀長・大谷喜久蔵と韓国 ―――― 松田 利彦 175
—大谷関係資料を中心に—

第4部　植民地状況を生き延びる

8 金星圭と金祐鎮、3・1運動前後における
世代葛藤の一断面 ―――― 權 ボドゥレ　203

9 植民地農村青年と在日朝鮮人社会 ―――― 鄭 昞旭　251
―慶尚南道咸安郡、周氏の日記（1933）の検討―

10 故郷の夢 ―――― 板垣 竜太　298
―在京都朝鮮人留学生日記（1940～43年）にみる植民地経験―

第5部　解放なき「解放」を迎える

11 朝鮮解放直後におけるある労働者の日常 ―――― 太田 修　337
―仁川の電気工 I 氏の日記から―

12 朝鮮戦争期における民間人虐殺遺族の自叙伝分析 ―――― 金 武勇　376
―告発の政治としての家族の語り―

著者・翻訳者プロフィール ―――― 395